

科目名	歴史総合		学年	類型・コース	単位数
			3年	全員履修・普通	2単位
学習の目標	近現代の歴史を理解し、歴史に見られる諸課題を把握する。よりよい社会の実現を視野に入れ、着目した課題を多面的多角的に考察し、主体的に解決しようとする態度を養う。				
教科書副教材	主たる教材：『歴史総合』（実教出版）、副教材：『歴史総合 演習ノート』（実教出版）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、提出物（振り返りシート、問題集、授業ノート、レポートなど）、ペアワークやグループワークでの取り組み、発表などを総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、世界とその中の日本を広く相互的な視点から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解することができる。諸資料から歴史に関する様々な情報を調べ、まとめることができる。	
		b	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期・年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的多角的に考察することができる。課題を把握し解決を視野に入れて構想し、議論することができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸課題について具体的な主題を自ら設定し、主体的に主題を追求したり解決したりする活動を行うことができる。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4月	6	【歴史の扉】【近代化と私たち】近代化への問い、近代化への胎動	歴史と私たち、歴史の特質と資料 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動、江戸時代の生産・流通と諸改革、幕政の改革と東アジア世界	定期考査（中間・期末）、小テスト	定期考査（中間・期末）、発表、振り返りシート	発表、演習ノート、授業ノート、振り返りシート
	5月	8	欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	イギリス産業革命とアメリカ独立戦争、フランス革命とウィーン体制、アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立、オスマン帝国の衰退とロシア			
	6月	8	欧米諸国と日本の国民国家形成	アヘン戦争の衝撃と日本の開国、江戸幕府の滅亡、イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一、明治政府の諸改革、日本のアジア外交と国境問題			
	7月	4	帝国主義の時代	自由民権運動と大日本帝国憲法 帝国主義の時代へ、朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争、日清戦争後の東アジア			
夏休み							
2 学期	9月	8	【国際秩序の変化や大衆化と私たち】国際秩序の変化や大衆化への問い、第一次世界大戦と大衆社会	日露戦争と東アジアの変動、日本の産業革命 近代化と現代的な諸課題、第一次世界大戦、ロシア革命とソ連の成立、米騒動とデモクラシー、	定期考査（中間・期末）、小テスト	定期考査（中間・期末）、振り返りシート	発表、演習ノート、授業ノート、振り返りシート
	10月	8	経済危機と第二次世界大戦	ヴェルサイユ体制とワシントン体制、アジアの民族運動、第一次世界大戦後の欧米諸国、ひろがる社会運動と普通選挙の実現、世界恐慌と各国の対応、ファシズムの時代、			
	11月	8	経済危機と第二次世界大戦	満洲事変と軍部の台頭、日中戦争と戦時体制、第二次世界大戦の勃発、第二次世界大戦の終結、国際連合の成立と冷戦			
	12月	4	経済危機と第二次世界大戦	日本占領と日本国憲法、朝鮮戦争と日本、国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題			
冬休み							
3 学期	1月	6	【グローバル化と私たち】グローバル化への問い、冷戦と脱植民地化、多極化する世界、グローバル化と現代世界、現代的な諸課題の形成と展望	植民地の独立、米ソ両陣営の動揺、日本の国際社会復帰と高度経済成長、石油危機と世界経済、緊張緩和から冷戦の終息へ、日本の経済大国化、地域紛争と対立、国際秩序の変容、現代的な諸課題の理解と課題の設定、設定した課題について収集した資料・情報を分析し、考察を行う。論述や発表などを通じてまとめを行う。	学年末考査、小テスト	学年末考査、発表、振り返りシート、レポート	発表、演習ノート、授業ノート、振り返りシート、レポート
	2月						
	3月						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

ノートやプリントの復習を大切にしましょう。また、毎時間、教科書や問題集など忘れ物がないように注意しましょう。